



114  
A 410



陳情書

私共儀

去ル明治十年及十三年ニ朝鮮國ニ渡航致シ爾  
未嘗々トシテ日韓貿易ニ從事罷在候処本年一  
月十一日ニ至リ突然當時ノ元山領事上野專一  
氏ヨリ治安ヲ妨害シ風俗ヲ壞乱スルニ至ルヘ  
キモノト認定スル旨ヲ以テ三ヶ年間に留禁止  
ヲ命セラレ候私共不肖斯ル罪責ヲ被ルニ至リ  
タル事由ヲ覺ル能ハズト雖モ即チ嚴譴ヲ惶  
偏ニ候得バ私等兩人共夙ニ朝鮮ニ渡リテ日韓  
貿易ニ從事シ十八九年間ノ久シキ或ハ仁川ニ

天正十一年四月  
限侯爵邸寄贈



赴キ或ハ釜山ニ出テ或ハ元山ニ留リテ専ラ商  
業ニ従事シ居タレハ歲月ヲ経過スルニ從ヒ居  
留民ノ推ス所ト為リ常ニ二三ノ名譽職ニ當リ  
タルガ故ニ職務上領事ト往復照會セザルヲ得  
ズ時ニ論争ノ止ムヲ得ザルトモアルヨリ遂ニ  
其忌諱ニ觸レテ在韓禁止ノ嚴罰ヲ受クルニ至  
リ誠ニ愧憾ノ限りニ御坐候  
抑モ如何ナル理由アリテ私共兩名上野領事ヨ  
リ斯ル嚴譴ヲ被ルニ至リタル歎其處分認定ニ  
アルヲ以テ素ヨリ之ヲ確知スル能ハス從テ其  
次第ヲ詳陳シテ寛ヲ訴フルニ由ナキモ今私共  
ノ所為領事ノ忌諱ニ觸レタラント思ハル、モ

ノナキニ非ザレハ之ヲ列記レテ明瞭ヲ仰ゲン  
トス

第一粗悪錢行使者ノ處分ニ付

昨廿八年三四月ノ交本邦ヨリ寛永通寶ト称ス  
ル方孔ノ一厘錢ヲ輸送シ来リ之ヲニ倍餘ノ時  
價ヲ有スル韓錢ニ混入シテ頻リニ行使スル者  
アリ為ニ市場ハ恐慌ヲ起シテ取引一時困難ヲ  
極メタルバ元山居留民ハ其弊ニ堪ヘス遂ニ居  
留地会及ヒ商業會議所ヨリ事情ヲ具シテ上野  
領事ニ相當ノ取締方ヲ請ヒ其後韓高ノ告發ニ  
依リテ此粗悪錢行使者ハ前年十一月始メテ開  
店セシ大阪日印貿易会社支配人中野太兵衛ナ

ルヲ判然タルニ至リシモ領事ハ之が処分ヲ為  
サバルノミナラズ終ニ不問ニ附シ去リタリ此  
際私共ハ居留地会若クハ会議所ノ代表者トナ  
リテ屢々領事ニ請求スル所アリシカバ或ハ其  
忌諱ニ觸レタランモ測ラレズ左レド是レ職務  
上止ムヲ得ガハニ出デタルモノナルヲ前陳ノ  
次第ニ御坐候

第二惡疫豫防ノ施設ニ付キ

昨世八年七八月ノ交元山居留地附近ノ元山里  
ニ虎列刺病ノ流行アリ乃テ居留地衛生会ノア  
ルニ拍ラス上野領事ハ八月四日ヲ以テ突然彼我ノ  
交通ヲ遮断シタリ然ルニ其後日ヲ経テ病勢漸

ク衰ハ殆ド消滅ニ歸シタルヨリ朝鮮ノ税関ハ  
既ニ遮断ノ禁令ヲ解キテ清高居留地ニ公衆ノ  
往來貨物ノ運輸ヲ自由ニセシモ獨リ我領事ハ  
遮断ヲ繼續シテ容易ニ解除スルノ色ナキヲ以  
テ居留民頻リニ領事ニ解禁ヲ請フテ止マズ左  
レド領事ハ日々ノ新患者七八名アリトノ報告  
ヲ示レテ更ニ之ニ應セズ物論漸ク喧シク其末  
遂ニ流行病地方ノ實況ヲ調査スル事トナリ居  
留地會議負葭瀬忠太郎吉副喜八郎及松平警部  
巡查某檢疫委員醫師百武真卿ノ五名朝鮮巡查  
一名ヲ伴ヒ一行六名九月六日ヲ以テ元山里ニ  
赴キ其實地ヲ調査シタルニ葭病後已ニ三四日

ヲ經タル虎列刺患者二名アルノミ病勢既ニ衰  
ヘテ殆ンド消滅ニ歸シタルコト確然トシテ領  
事館報告ノ示ス所ト大差アルヲ以テ報告ノ出  
所ヲ究メタルニ折柄同行セル朝鮮巡查之ヲ松  
平警部ニ報ジ警部之ヲ領事ニ告ゲテ遂ニ館ノ  
報告トナリタルモノナリト云フ由テ朝鮮巡查  
ニ就テ之ヲ糾セバ一週苦クハ旬日間ノ数ヲ積  
算シタルモノナリト答フ是ニ於テ一行ハ領事  
館ノ粗忽ニ驚キ歸來直チニ居留地會議ヲ開キ  
其議決ニ依リ議長梶山新介事情ヲ具シテ遮断  
解禁ノ事ヲ領事ニ請フモ容易ニ容レラレズ尚  
頻リニ請フ所アリ終ニ九月十日ニ至リテ解除

ノ令ハ下リタレヒ遮断以來居留高民ノ痛苦ハ  
一方ナラズ其間私共ハ職務上領事ト往復ノ衝  
ニ當リ報告ノ誤謬ヲ摘發スル等領事ノ忌諱ニ  
觸レタラント思ハル、ヲ寡カラズト至ヒ是亦  
職務上止ムヲ得ガルニ出デタル次第ニ御座候  
第ニ火葬場移轉ノ事ニ付キ  
元山開港以來共同ノ火葬場ハ居留地ト程遠カ  
ラガハ共同墓地ノ山麓ニ設置サレテ十数年ノ久  
シキ之ニ関スル用意モ一切整頓シ居留民終焉  
ノ式典ヲ奉ケ表リテ毫モ故障ヲ見ガリシ是レ  
ヨリ先キ佛國宣教師某此山上ニ居宅ヲ營築ス  
其位地火葬場ノ上手ニ在ルヲ以テ人々地ヲ相

スルノ奇異ナルヲ訝カリタルが果シテ山麓ノ  
臭烟、風ニ從テ山上ノ居宅ヲ襲シカバ宣教師ハ  
上野領事ニ向ヒ火葬場ノ移轉ヲ請求スル頻リ  
ナリトノ事ヲ聞クニ至レリ斯クテ昨セハ年九  
月ニ至リ西山某其妻ヲ亡ヒ居留地公共ノ火葬  
場ニ於テ其遺骸ヲ火ニセントスルニ當リ領事  
館ハ突然之ヲ差止メ未ダ些少ノ施設モ無キ原  
野ノ中ニ於テ火葬ノ事ヲ管マシメタリ是ニ於  
テ居留民ハ大ニ激昂シ遂ニ居留地臨時会ノ議  
決ニ依リ私共兩名ヲ擧ゲテ委員トナシ領事ニ  
請願スル所アリシ此際私共ハ領事ニ面謁シテ  
移轉止ムヲ得ガハニ於テハ新火葬場ニ於ケル

（實録五八四 京師區元勳會館第一丁目一番地大塚社印）

諸般ノ用意整頓スルマデ時日ノ猶豫アラシ  
シ請フヲ頻リニ論争スル所アリシモ事終ニ聞  
カレズ當時居留民ノ苦情ハ聞クニ堪ユガハ  
ノアリシ此時亦領事ノ忌諱ニ觸レタラシト思  
ハレハ、一無キニ非ス左レド是レ職務上止ムヲ  
得ガハニ出ダタル次第ニ御座候  
以上ノ如ク私共兩名上野領事ニ對シ尊嚴ヲ冒  
瀆シタルトナキニ非ガハルモ事セハ年ハ九月ノ  
交ニ在リ之が為メ四五月後ノ本年一月ニ至リ  
退韓ノ嚴命ヲ發セラレタルモノトモ思ハレズ  
事ノ原因ヲ求メテ終ニ發見スルヲ得ズ當惑ノ  
外ナキ次第ニ御座候但シ左ノ風説ハ本年一月

中ノ事ニ係ルヲ以テ御参考ニ供スル為メ茲ニ  
書加ヘ奉供高覧候

火葬場移轉ニ付キ居留地会開會ノ風説  
去年九月ヲ以テ俄ニ使用ヲ差止メラレタ  
同火葬場ハ居留民ノ請願アルモ一切作ケテ之  
ヲ使用セシメザリシニ越テ十一月初旬ニ至リ  
守備隊兵士七名ノ遺骸ヲ此火葬場ニ於テ火ニ  
セラレタリ此事居留人民ノ間ニ議論ヲ生シタ  
リシガ本年一月ニ至リ十五日ヲ期シ居留地会  
ヲ開キテ領事ニ問フ所アラントストノ風説ヲ  
未セリ當時居留民ノ間ニ多少ノ物論ヲ生シタ  
ルハ素ヨリ事実ナレトモ一月十五日ヲ期シテ居

留地会ヲ開キ領事ニ問フ所アラントストハ私  
共ノ知ラザル所ニシテ一時途上ノ風説ニ過ギ  
サリシガ此風説ノ開會期日ニ先ツ五日、本年一  
月十一日ヲ以テ退韓ノ嚴命アリタルヲ見レハ  
此風説或ハ嚴命ノ近因タリシヤモ測ラレズ痛  
歎罷在候

此他特ニ茲ニ掲ゲテ奉供清覧度一事アリ上野  
領事ハ裁判權ヲ執行スルノ職責アルヲ以テ一  
般普通ノ領事ノ如ク居留民ト親近スルヲ嫌忌  
セリト云フ此傳説或ハ真ナリシナラシ領事ノ  
赴任以來力メテ居留民ト接近スルヲ避ケ其間  
ノ隔絶嘗テ見ザル所ナリシ其結果トシテ上情下

違セス下情上通セガルノ遺憾ヲ生ゼリ斯レハ  
私共ノ事情能ク領事ニ上達セズ左ナキ事柄モ  
傳播ノ誤リヨリ領事ノ忌諱ニ觸レタランモ測  
ラレズ私共ノ迷惑限リ無キ事ニ御座候  
上未列記仕候如ク私共狂愚誤リテ衆ニ推サレ  
名譽ノ職ニ當リタルガ為ノ遂ニ当局ノ忌諱ニ  
觸レ退韓ノ嚴遣ヲ被リ候次第ナレモ元来私共  
ハ十八九年來ノ久レキ朝鮮ニ在留シテ一意商  
業ヲ營ミ候モノ韓商トノ取引モ頗ル錯難ヲ極  
メ前金ノ貸付物品ノ懸賣商品授受ノ豫約等日  
々処分ヲ要スルモノアリ又内地商人トノ取引  
モ略ス同様ニシテ營業上ノ懸引ニハ日モ亦足

(昭和五八四 京橋區元町通一丁目一番地大成社印行)

ラガルノ身分ナルニ然ルニ此高民ニ対シ行政  
上ノ取締法タル退韓ヲ以テ処分サレ自ラ商業  
ヲ營ムノ自由ヲ褫奪サレ候事痛苦此上モ無キ  
次第ニ御坐候  
今ヤ日韓貿易ハ益隆盛ヲ圖ルノ秋ニ方リ実験  
アリモノハ一人ガモ多ク渡韓セシメ以テ我國  
利民福ヲ増進セシトスルノ折柄感情ノ軋轉ニ  
由リ法律ヲ濫用シ私憤ヲ恣ニスルガ如キハ失  
當テ甚レキ举措ニシテ當ニ私共ノ寛且困難ナ  
ルヲ益ナラズ貿易奨励ノ御主意ニ及シ國家  
公査上ニ於テ大ナル有害ナラント奉存候私共  
従来ノ行為上ニ於テ果シテ風俗壞乱治安妨害

人 挙アリヤ否ヤハ普ク在韓居留民ノ知悉スル  
 處ナレバ廣ク該地ノ輿論ニ問ハセラル罪迹ノ  
 有無御取調ヲ得ル判然可任ト奉信居矣  
 閣下新タニ外務ノ大任ニ當リ宿弊ヲ刷新シ外  
 政ヲ擴張シテ國權國利ノ進張ヲ期セラル是レ  
 遐外ノ小民ト虽モ當サニ自ラ奮勵シテ各々其  
 事ニ従フヘキノ秋ナリ然ルニ私共西人不幸意  
 外ノ罪責ヲ被リテ年来ノ事業ヲ舍カサルヲ得  
 ガルニ至ル誠ニ慚感ノ至リニ堪ユズ則チ唐突  
 ヲ顧ミズ敢テ其ノ顛末ヲ略叙シ以テ閣下ノ明  
 鑒ヲ煩ハシ候其ノ罪過ノ有無ト退韓處分ノ免  
 否トハ更ニ偏ニ閣下ノ裁断ヲ奉侍候尊嚴ヲ

(電話五八四) 東京電報元電報局第一丁目一番地大成社印行

冒瀆シテ惶懼ノ情ニ堪ヘス候誠恐頓首

明治廿九年十一月十日

山縣周防國佐波郡大字宮市町八百三十六番屋敷平民

梶山 新 次

全縣長門國阿武郡萩郡町三番地平民

北段 瀨 忠 太 郎

外務大臣伯爵大隈重信殿

閣下





（書體五入四 京橋區元町三丁目一番地大塚社印行）

Blank lined page with vertical columns for writing.